

第65回日本小児保健協会学術集会 ミニシンポジウム4

健やか親子21を効果的にすすめるために

日本小児保健協会の取り組み方

加藤 則子 (十文字学園女子大学幼児教育学科)

国民運動計画である健やか親子21が策定されて17年になるが、日本小児保健協会は健やか親子21推進協議会設置当初より参加団体として関わってきた。第1次の健やか親子21では、4つの主要課題が示されたが、本協会はそのうちの一つである第4課題「子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減」に取り組む諸団体の幹事団体として取りまとめを行ってきた。健やか親子21(第2次)が2014年に策定されると、推進協議会には、4つのテーマグループ(第1テーマ「国民への普及啓発・情報発信等」、第2テーマ「育児支援等」、第3テーマ「児童虐待防止・対応強化」、第4テーマ「調査研究やカウンセリング体制の充実・ガイドラインの作成等」)が設定され、本協会は第1, 2, 3のグループに参画することとした。第2テーマグループでは、幹事団体を拝命し、以来テーマグループの活動の活性化を図ってきている。

表1 日本小児保健協会 健やか親子21対応委員会

スーパーバイザー	
平岩幹男	日本小児保健協会副会長
山縣然太郎	山梨大学社会医学系教授
委員	
秋山千枝子	あきやまこどもクリニック院長 日本小児保健協会会長
大木幸子	杏林大学保健学部教授
小倉加恵子	森之宮病院小児神経科
加藤則子(委員長)	十文字学園女子大学人間生活学部教授
鈴木美枝子	玉川大学教育学部教授
高野博子	高野歯科クリニック理事長 日本小児歯科学会副会長
堤ちはる	相模女子大学栄養科学部健康栄養学科教授
橋本創一	東京学芸大学教育実践研究支援センター教授
山崎嘉久	あいち小児保健医療総合センター副センター長

健やか親子21(第2次)推進協議会の取り組みの特徴の一つが、企業の参画を促すことである。趣旨に賛同し参加する企業のことを応援メンバーと呼んで協働を図っている。このようにして活動を全国民に周知し、担い手となっていただけるよう、働きかける。また、「健康長寿を延ばそう!アワード」の母子保健部門が健やか親子21(第2次)の始まった平成27年に設けられ、毎年意欲的な団体が応募し、優れた取り組みをしている団体が受賞している。健やか親子21(第2次)推進協議会では、年一度の総会をはじめとしたさまざまなイベントにおいて受賞団体を紹介し、またいくつかの団体からはプレゼンテーションが行われている。

日本小児保健協会が第2テーマグループの幹事団体として十分機能していけるよう、健やか親子21対応委員会が協会内で組織され機能強化が図られている(表1)。委員会は多職種からなり、健やか親子21(第2次)推進協議会等の動きを共有し、厚生労働省での動きも確認しつつ、活発な意見交換が行われている。

第2テーマグループではグループ相互の連携を重んじ、お互いの活動内容を知り合うことを目的として平成28年秋にアンケートを行い、39団体中、15団体からの回答があった。健やか親子21(第2次)の指標のうち、団体の活動によってその改善に貢献できると思われる指標を回答してもらった結果を表2に示す。回答は妊娠出産・乳幼児に関するものに多く、また団体の職能に特化したものにも回答が集まった。地域づくりや父親の参加にも関心が高かった。

平成29年度に関しては、厚生労働省から各グループで共通テーマを設定しての取り組みが提案された。健やか親子21(第2次)で提示された指標のうち、改善の余地があると選定された6指標(全出生数中の低出

表2 第2グループ各団体が、改善に貢献できると思う指標

15団体からの回答集計

指標の改善に貢献できると思うものに○（いくつでも）

特に貢献できると思うものに◎（このシート全体の中で合計3つ程度）

記入された記号の数の合計

重点課題① 育てにくさを感じる親に寄り添う支援					
記号番号		指標名	記号番号		指標名
◎	○		◎	○	
4	1	①-1 ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合	2	0	①-参1 小児人口に対する親子の心の問題に対応できる技術を持った小児科医の割合（小児人口10万対）
1	3	①-2 育てにくさを感じたときに対処できる親の割合	1	0	①-参2 小児人口に対する児童精神科医師の割合（小児人口10万対）
0	3	①-3 子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合	0	0	①-参3 情緒障害児短期治療施設の施設数
0	2	①-4 発達障害を知っている国民の割合	0	0	①-参4 就学前の障害児に対する通所支援の利用者数
0	2	①-5 ・発達障害をはじめとする育てにくさを感じる親への早期支援体制がある市区町村の割合	0	1	①-参5 障害児支援を主要な課題とする協議体を設置している市区町村数
0	0	・市町村における発達障害をはじめとする育てにくさを感じる親への早期支援体制整備への支援をしている県型保健所の割合			

基盤課題A 切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策

記号番号		指標名	記号番号		指標名
◎	○		◎	○	
0	3	A-1 妊産婦死亡率	0	1	A-16 ・乳幼児健康診査事業を評価する体制がある市区町村の割合 ・市町村の乳幼児健康診査事業の評価体制構築への支援をしている県型保健所の割合
0	5	A-2 全出生数中の低出生体重児の割合	0	0	
2	3	A-3 妊娠・出産について満足している者の割合	0	1	A-参1 周産期死亡率
3	1	A-4 むし菌のない3歳児の割合	0	1	A-参2 新生児死亡率、乳児（1歳未満）死亡率（出生千対）
3	2	A-5 妊娠中の妊婦の喫煙率	0	1	A-参3 幼児（1～4歳）死亡率（人口10万対）
1	4	A-6 育児期間中の両親の喫煙率	1	1	A-参4 乳児のSIDS死亡率（出生10万対）
1	2	A-7 妊娠中の妊婦の飲酒率	1	0	A-参5 正期産児に占める低出生体重児の割合
		A-8 乳幼児健康診査の受診率（重点課題②再掲）	0	1	A-参6 妊娠11週以下での妊娠の届出率
0	2	A-9 小児救急電話相談（#8000）を知っている親の割合	3	1	A-参7 出産後1か月時の母乳育児の割合
3	1	A-10 子どものかかりつけ医（医師・歯科医師など）を持つ親の割合	1	2	A-参8 産後1か月でEPDS9点以上の褥婦の割合
2	2	A-11 仕上げ磨きをする親の割合	1	1	A-参9 1歳までにBCG接種を終了している者の割合
		A-12 妊娠届出時にアンケートを実施する等して、妊婦の身体的・精神的・社会的状況について把握している市区町村の割合（重点課題②再掲）	1	2	A-参10 1歳6か月までに四種混合・麻しん・風しんの予防接種を終了している者の割合
1	1	A-13 妊娠中の保健指導（母親学級や両親学級を含む）において、産後のメンタルヘルスについて、妊婦とその家族に伝える機会を設けている市区町村の割合	0	0	A-参11 不妊に悩む方への特定治療支援の助成件数
0	1	A-14 産後1か月でEPDS9点以上を示した人へのフォロー体制がある市区町村の割合	1	0	A-参12 災害などの突発事象が発生したときに、妊産婦の受入態勢について検討している都道府県の割合
1	0	A-15 ・ハイリスク児に対し保健師等が退院後早期に訪問する体制がある市区町村の割合 ・市町村のハイリスク児の早期訪問体制構築等に支援をしている県型保健所の割合			
0	0				

重点課題② 妊娠期からの児童虐待防止対策							
記号番号		指標名	記号番号		指標名		
◎	○		◎	○			
0	4	②-1	児童虐待による死亡数	0	1	②-8	養育支援が必要と認められた全ての家庭に対し、養育支援訪問事業を実施している市区町村の割合
3	4	②-2	子どもを虐待していると思われる親の割合	0	1	②-9	特定妊婦、要支援家庭、要保護家庭等支援の必要な親に対して、グループ活動等による支援（市区町村への支援も含む）をする体制がある県型保健所の割合
2	5	②-3	乳幼児健康診査の受診率（基盤課題A再掲）	0	1	②-10	要保護児童対策地域協議会の実務者会議、若しくはケース検討会議に、産婦人科医療機関の関係職種（産婦人科医又は看護師や助産師）が参画している市区町村の割合
0	2	②-4	児童虐待防止法で国民に求められた児童虐待の通告義務を知っている国民の割合	0	1	②-11	関係団体の協力を得て、児童虐待に関する広報・啓発活動を実施している地方公共団体の割合
1	5	②-5	乳幼児揺さぶられ症候群（SBS）を知っている親の割合	0	1	②-12	児童虐待に対応する体制を整えている医療機関の数
1	0	②-6	妊娠届出時にアンケートを実施する等して、妊婦の身体的・精神的・社会的状況について把握している市区町村の割合（基盤課題A再掲）	0	3	②-参1	児童相談所における児童虐待相談の対応件数
0	1	②-7	対象家庭全てに対し、乳幼児家庭全戸訪問事業を実施している市区町村の割合	0	1	②-参2	市区町村における児童虐待相談の対応件数

基盤課題B 学童期・思春期から成人に向けた保健対策							
記号番号		指標名	記号番号		指標名		
◎	○		◎	○			
0	2	B-1	十代の自殺死亡率	0	2	B-9	朝食を欠食する子どもの割合
0	1	B-2	十代の人工妊娠中絶率	0	1	B-10	学校保健委員会を開催している小学校、中学校、高等学校の割合
0	1	B-3	十代の性感染症罹患率	0	3	B-11	地域と学校が連携した健康等に関する講習会の開催状況
0	2	B-4	児童・生徒における痩身傾向児の割合	0	0	B-参1	スクールカウンセラーを配置する小学校、中学校の割合
0	3	B-5	児童・生徒における肥満傾向児の割合	1	0	B-参2	スクールソーシャルワーカーの配置状況
2	1	B-6	歯肉に炎症がある十代の割合	0	1	B-参3	思春期保健対策に取り組んでいる地方公共団体の割合
0	2	B-7	十代の喫煙率	1	0	B-参4	家族など誰かと食事をする子どもの割合
0	1	B-8	十代の飲酒率				

基盤課題C 子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり							
記号番号		指標名	記号番号		指標名		
◎	○		◎	○			
3	2	C-1	この地域で子育てしたいと思う親の割合	0	3	C-7	育児不安の親のグループ活動を支援する体制がある市区町村の割合
1	0	C-2	妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合	1	1	C-8	母子保健分野に携わる関係者の専門性の向上に取り組んでいる地方公共団体の割合
0	3	C-3	マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合	0	0	C-参1	個人の希望する子ども数、個人の希望する子ども数と出生子ども数の差
0	1	C-4	マタニティマークを知っている国民の割合	0	2	C-参2	不慮の事故による死亡率（人口10万対）
0	7	C-5	積極的に育児をしている父親の割合	0	2	C-参3	事故防止対策を実施している市区町村の割合
0	1	C-6	・乳幼児健康診査の未受診者の全数の状況を把握する体制がある市区町村の割合	0	2	C-参4	乳幼児のいる家庭で、風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないよう工夫した家庭の割合
0	1		・市区町村の乳幼児健康診査の未受診者把握への取り組みに対する支援をしている県型保健所の割合	0	1	C-参5	父親の育児休業取得割合

生体重児の割合、妊娠中の妊婦の喫煙率、育児期間中の両親の喫煙率、10代の自殺死亡率、児童虐待による死亡数、子どもを虐待していると思われる親の割合)が厚生労働省から示され、これらをもとに共通テーマを探るべく、参加団体にアンケートを行った。17団体から回答があり、重要であると答えた団体が多かった項目は、児童虐待による死亡数と子どもを虐待していると思われる親の割合(1位で選んだ場合3点、2位で選んだ場合2点、3位で選んだ場合1点の合計点がそれぞれ28点)だった。共通テーマには「妊娠準備期からの児童虐待予防から10代の自殺予防に至るまでの切れ目ない支援」を設定し、多職種からなる専門家

集団の強みを活かして講演会や研修会への講師派遣のデータベースを作成、運用とその評価を行っていく取り組みに関する計画が提案された。この成果は、今後の健やか親子21(第2次)のイベントにおける講演会やトークショーの出演者依頼のために活用されていくことが期待される。

健やか親子21のシンボルマーク「すこりん」の活用が望まれる。当協会主催のイベントのポスターや、学術集会での健やか親子関連演題のスライドやポスターには、積極的に「すこりん」が活用されるよう、働きかけていきたい。